# 「羅針盤」vol.27

校長　白岩博明

## 経験したことのないこと、だからこそ・・・

4月22日現在、新型コロナウイルスの国内感染者数は1万人2千人となり、亡くなった方は300人を超えました。依然として猛威を振るっている状況のなか、感染拡大防止策として講じている臨時休校が23日（木）で9日目となりました。いつもであれば、新たな学校生活に慣れるため勉強やクラブ活動、友だちとのコミュニケーションなどにとてつもないエネルギーを費やしていたに違いありません。それができないもどかしさ、悔しさ、残念でなりません。春休み前の臨時休校から2度目の休校措置となったこの期間、生じているストレスを生徒たちは上手に発散できているのだろうか？ 気に病む日が続きます。

新聞やテレビ、ネットのニュースにおいて、「これまで経験したことのない」という言葉を枕詞にした新型コロナウイルス感染に関するコメントや記事が散見しています。この言葉は、9年前、未曾有の大被害をもたらした東日本大震災以降、集中豪雨や地震などの想像を超えるような自然災害が発生するたびに使われているような気がします。まさしく、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大は国難であるということなのです。そして、我々がどのようにこのウイルスの脅威に向き合って、どんな知恵や工夫をもって対応しいくべきかという課題を問われ、試されているような気がします。

（生徒を待つ、静けさ漂う教室。）

4月14日（火）、休校に入る前日の校内放送で生徒に次のように話しました。「この休校の3週間は、みんなにとっても、我々にとっても、大切な期間です。まず、自分の生命・健康・安全を守ることが第一義です。そして、次に、自分の成長にとって“判断力と決断力”が試されている期間だと思うべきです。いつこの状況が収束するかわかりませんが、そのとき、どう過ごしたかを振り返ったとき、できるだけ後悔のないようにしたいものです。辛抱のときです。ともに乗り越えていきましょう」と。ただ、限られた時間でしたので、やや具体性に欠けていたことを反省しています。伝えたかったことは以下のようなことでした。

■さまざまな情報を得て理解できていることと思うが、罹患した場合の恐ろしさを念頭において行動して欲しい。新型コロナウイルスには特効薬がない。ゆえに、発症すると治癒するという保障がないということ、死に至るということだ。ひょっとしたら自分も感染しているかもしれないと思って行動すること（3密回避）が身近な人を守る行動に繋がるのではないだろうか。自分の健康、安全、そして、命を守ることに繋がるのだ。

■いつこの状況が収束するかわからない。まるで明かりを求めながら暗闇をもがいているような感覚ではないだろうか。先が見えないのは苦しい。しかし、この期間、学校からの指示や課題を消化するという学校リズムではもったいない。見えないからこそ、すがれるものを構築できるとき。自分リズムを確立するチャンスだ。

■国難のとき、多くの情報が否応でも飛び込んでくる。政府の対応や地方自治体の対応、休業を余儀なくされた労働者、窮地に立たされている医療従事者、罹患者を誹謗中傷する心無い人々、この期に及んで詐欺を働こうとする悪徳者・・・、今やるべきことは何なのか、冷静に情報収集し、編集し、獲得して欲しい。

さて、学校の対応ですが、すでに1回目の学習課題の送付をし、30日（木）には2回目を送付いたします。また、ICT（Classi）を活用したオンライン学習（課題や動画配信など）を行う予定でしたが、休校開始から数日間不具合が発生し、活用が滞っていました。一部の学年・教科によっては配信し始めています。現在、さらなる準備を進めており、間もなく授業展開に近づけた動画等の配信を行う予定です。5月7日（木）、学校が再開されることを願っていますが、万が一長引いた場合に備え、オンライン学習の環境をこれまで以上に整備するように（配信だけではなく、双方向でのやり取りが可能に）、まさに準備中です。

生徒にとっても、我々にとっても「判断力と決断力」が試され、磨かれるときです。好機と捉えたいものです。